

第9回藤原総合文化会館検討専門部会

I 特別委員会での検討

第8回会議の内容を議会特別委員会へ報告したところ、以下のようなご質問を受けた。

①藤原図書館の今後の取り扱いについて

図書館は現在3館で運用しており、地理的なことを考慮すると今後も藤原地域に必要であると考えますが、市の考えは。

→藤原図書館の方向性は、公共施設マネジメント計画実行計画(第2期)を策定する中で定めていく。藤原図書館の方向性(案)については下記の通り考えており、議会のご意見も踏まえ、対応を予定。

<藤原図書館の方向性(案)>

【検討の方向性】

- ・施設の老朽化が著しく、一部設備が利用できないことから、現施設の廃止と仮施設による運営を検討。
- ・新たな施設については、鬼怒川温泉駅前全体の検討の中で整理する。

【検討方法】

- ・藤原総合文化会館検討専門部会及び議会特別委員会との協議により、詳細を決定。
- ・協議結果について基本構想をまとめ、広く市民に周知し、意見を募る。

②財源について

財源確保の見込みについて、跡地利活用之际し、国からの助成金は対象となるのか。

→地元住民、観光客双方から利用される施設を検討し、可能な限り国庫補助金等の財源確保に努めていきたい。

II 整備に向けて検討するべきポイント

藤原総合文化会館跡地の整備にあたっては、住民、観光客双方から利用されるものの検討ということで合意がなされた。

ここでは先進事例を参考に、施設整備にむけて検討するべきポイントを整理したい。

【先進事例抽出の視点】

- ・ 広場として活用されており、公共施設のボリュームが少なく、民間事業者が運営に参与している事例
- ・ 鬼怒川温泉駅前の特徴を踏まえ、大規模な商店街や都市公園等に隣接しているものは除外

先進事例一覧

施設名	所在地	概要
キオラスクエア 三原	広島県三原市 (人口：88,111人)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>民間施設（ホテル・スーパー）及び公共施設を一体的に整備し、まちの元気を市内外に発信</u>できる「にぎわい交流拠点」として活用することをめざした事業 ✓ <u>広場は、市民の憩いの場およびイベント等により駅前のにぎわいを創出する場として活用</u>されている
元市民会館前広場 「IBALAB@広場」	大阪府茨木市 (人口：285,715人)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ワークショップをきっかけに集まった<u>市民有志を中心に、社会実験を通じて整備内容や自主的な活動、利用ルールを検討</u>し、令和4年度からは市民有志メンバーである「茨木コモンズ」が運営を実施 ✓ 民間事業者がキッチンスペースの運営と合わせて、備品の貸出や簡単な植栽の管理、利用者の調整等、運営業務をサポート
福岡市役所西側 ふれあい広場	福岡県福岡市 (人口：1,645,123人)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公有財産貸付により、<u>エリアマネジメント組織を含む事業者による活用（運営）</u>を実施 ✓ 事業者構成員であるメディアによりイベントの広報や運営サポートを実施

※「キオラスクエア三原」は図書館本館を含む広場・民間施設（ホテル・スーパー）との官民複合施設だが、駅前公有地活用の事例として掲載

※それぞれの施設の詳細については、別紙を参照

●今後検討するポイント

- | | |
|----------------------------|--------------|
| ① 民間施設及び公共施設の一体的な整備 | (既存施設の再構築) |
| ② 施設の有効活用に向けた市民との協働 | (新たな価値の創出) |
| ③ 周辺施設を含めたエリアマネジメントによる運営体制 | (整備後の施設有効活用) |

Ⅲ 検討するポイントに対しての基本的な市の考えについて

①民間施設及び公共施設の一体的な整備について

整備予定地には藤原図書館、観光情報センター、公衆トイレのほか、民間施設として鬼怒川・川治温泉旅館協同組合の建物が存在し、これら施設の再編を検討するとともに、市民だけでなく観光客も集える広場を整備することで、鬼怒川温泉駅前の魅力向上につなげたい。

→既存施設の再編については、(一社)日光市観光協会鬼怒川・川治支部、及び鬼怒川・川治温泉旅館協同組合との協議を進めるとともに、藤原図書館利用者等の意見を伺うことで対応を進めていきたい。

→広場については、市民の憩いの場だけでなく、鬼怒川温泉の玄関口として観光客へ魅力をアピールできるような新たな価値を創出するため、ご意見をいただきたい。

②施設の有効活用に向けた市民との協働について

これまでは文化会館跡地利活用について、公共施設の適正化推進を目的として設置された「藤原総合文化会館検討専門部会」で検討を重ねてきた。

これからは、現専門部会の名称及び目的を変更するとともに、新たな委員を加え組織の強化を図り、鬼怒川温泉駅前の活性化を主として検討を進めていきたい。

新組織名称(案) : 鬼怒川温泉駅前再整備検討市民委員会

設置目的 : 鬼怒川温泉駅前の整備に当たり、市民の立場から幅広く必要な意見を求めるため

想定する新たな委員 : 東武鉄道株式会社、東武バス株式会社、図書館協議会

※藤原図書館の検討を進めること、鬼怒川温泉駅前周辺のまちづくりを進めることから、事務局に生涯学習課、都市計画課、維持管理課、藤原行政センターを加える。

→新組織を設置するに当たり、引き続き委員として委嘱させていただくとともに、新たに加えるべき委員についてご意見をいただきたい。

③周辺施設を含めたエリアマネジメントによる運営体制について

藤原総合文化会館跡地に整備する施設を賑わい創出の拠点とし、周辺に好影響を及ぼすことで地域の活性化に繋げていきたい。加えて、鬼怒川温泉駅前のイメージを向上させることで観光地としての価値向上を目指したい。

このため、施設の有効活用が重要となることから、整備後の運営に係る体制づくりを検討することが必要。

→鬼怒川温泉駅前関係団体の連携強化を目指し、民間活力の導入も視野に入れ、施設の有効活用を図っていきたい。

まとめ

- ・現在の公共施設等の機能をどのように残すか検討する
- ・鬼怒川温泉駅前周辺のまちづくりの観点から議論ができる組織を立ち上げる
- ・新たな組織において、上記3つの視点から協議を進めていきたい

IV 今後のスケジュール

藤原総合文化会館の跡地をはじめ、駅前にある公共施設等の整理も含め、市民委員会及び市議会との協議により進めていく。(市民委員会の開催は、年3回程度を予定)

年度	内容
令和6年度	<ul style="list-style-type: none">・市有財産ポテンシャル調査実施(民間参入可能性調査)・既存施設再編に伴う関係団体との協議・住民、観光客双方から利用される施設の整備方針の協議 →整備基本方針の決定
令和7年度	<ul style="list-style-type: none">・基本計画の策定・藤原総合文化会館廃止・解体設計
令和8年度	<ul style="list-style-type: none">・整備設計・工事着工(解体)
令和9年度	<ul style="list-style-type: none">・工事着工(整備)

※現時点で想定される最短のスケジュールであり、進捗によって随時見直す